

祝第8回

芸術文化祭 in 里見

# みんなの 作品展示会開催

今年も地域の方々や、交流センター利用者の皆さんの協力を得て、第8回目となる「みんなの作品展示会」を開催することが出来ました。

手芸作品ばかりでなく、見事な菊鉢やいけばな作品も並んだ華やかな会場に、地域内外から多くの来場者があり、賑やかな三日間でした。



休憩コーナーでは話しがはずみました



今年も福地地区・近江文雄さんの作品を展示させていただきました



# 里見いどばた交流祭【里見の思い出を語る会】

佐野吉太郎 翁のこと



10月22日に開催した、里見いどばた交流祭の『里見の思い出を語る会』の中で、公民館前の胸像『佐野吉太郎』に関するお話がありました。

そのお話をしてくれたのは、いどばた会議メンバーとして昨年度から交流センター事業に協力していただいている吉田さん(造山)です。

佐野吉太郎 翁のひ孫にあたる吉田さんが、とても解りやすく発表してくださり、ぜひ地域の皆さんにもお知らせしたいと考え、吉田さんの許可を得て少し短くまとめました。

この胸像は“佐野吉太郎”という私の曾祖父、ひいじいさんにあたる人です。安政5年、西暦1858年に砂子田村に生まれました。

安政？現在は令和・その前が平成ですね。さらにさかのぼって昭和・大正・明治・慶応・元治・文久・万延、そして安政となりますが、この年に、歴史の時間に習ったことのある井伊直弼の事件“安政の大獄”がありました。はるか昔に感じますが、佐野吉太郎は今の私のひいじいさんなのです。(笑)

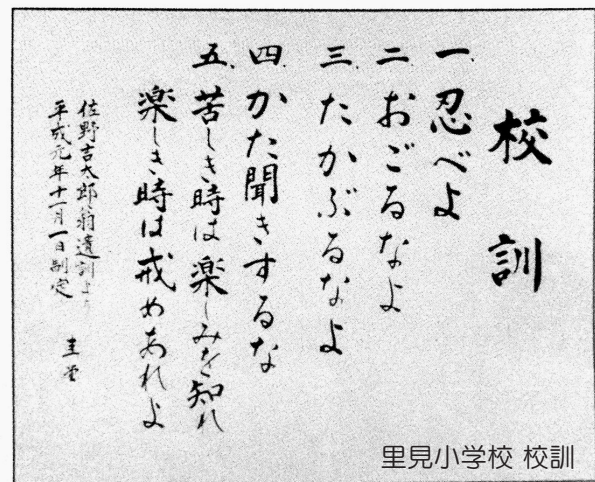
では佐野吉太郎の軌跡を簡単に紹介します。1880年、明治13年23歳から3年間、砂子田村役場に勤務したのが最初の公務でした。明治22年に東里・樽見内・砂子田・造山の“四村合併”により“里見村”が誕生し、5年後38歳の若さで里見村長に選ばれたのは、ちょうど日清戦争直後の明治28年のことです。

吉太郎は“村全体はひとつの家で、全村民はひとつの家族”という村作りを指導し、村の発展に献身的に努めました。里見小学校・里見駅・村立図書館の建設、道路・電灯・電話などの整備・普及、村財政の長期確立のため、後の里見財産区の礎となる村有林の拡大に努めるなど、数々の業績を残しました。

昭和6年に、今の雄物川高校グラウンドの辺りに里見運動場を作り、その運動場で消防出初式中に74歳で突然倒れるまで43年間、村長9期を務め、村作り一筋の生涯であり、大往生であったそうです。

吉太郎の末娘である私の祖母の実家(吉太郎の家)の話は、ほとんど聞いた記憶がありません。以前は何とも思わなかったのですが、今思えばとても残念なことです。

あえて言えば、祖母が砂子田の佐野家から南田の佐藤家に嫁ぐ際に、漆塗りのお膳を持たせられたそうですが、そのお膳の真ん中に『忍』の漢字一文字が書かれていたそうです。吉太郎の教訓で里見小学校校訓にもなった五ヶ条のひとつ目が「一、忍べよ」だったからなのでしょう。実際、祖母が忍んだ生活をしてきたかどうかは定かではありませんが…(笑)



今回、曾祖父について調査する機会を得て、郷土史などの文献を調べるなど、大変貴重な体験をいたしました。未だにピンときていませんが、詳しく知ることができて本当に良かったと思います。きっと胸像の曾祖父も公民館の前で喜んでいることと思います。

つぶやき (編集後記)



作品展示会は多くの来場者に喜んでいただきました。会場ホールに掲示していた「昭和の写真」を見てくださる方も多く、特に里見駅(横荘線)の懐かしい思い出話に花が咲きました。こんな楽しい時間・楽しい機会を作るための交流センターなのだとは再確認した3日間でした。